

事業評価

平成 28 年度

担当課

環境課

基本事項	事業名	公衆便所清掃事業					整理番号	0810			
	根拠法令等	なし					実施を義務付ける規定	○あり ●なし			
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第4章 安全・安心と安らぎの環境を整える			予算科目	4 款 1 項 2 目	●継続 ○新規				
		節 第3節 住環境の整備			事業区分	施設整備					
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	市民が利用する公衆便所を清潔に保つ。障害者優先障害者優先調達推進法の施行に伴い、障害者就労施設等から優先的・積極的に物品・業務の調達を推進することとなり、公衆トイレ清掃において特に使用頻度の高い25か所で一般清掃に加えて尿石取りを行うこととした。					計画期間	始期	平成	不明	年度から
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	市が管理する公衆便所43か所を清潔に保つ。特に、観光地に近いトイレについては、観光地としてのイメージを損なわないように配慮する。									
	目的達成のための 具体的手段・方法	公衆便所の使用頻度に応じて1日1回、2日に1回、3日に1回、1週間に1回と清掃頻度を決めて、清掃業者に委託する。委託業者は入札により決定する。また、特に使用頻度が高い便所25か所では尿石取りの作業も行う。									
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名 称 等 (内 容)		単位	26 年度	27 年度	28 年度				
		① 汚いトイレの数、0箇所 苦情件数、0件	目標	箇所	0	0	0				
			実績	箇所	0	0					
			達成率	%	100	100					
		②	目標								
			実績								
	達成率		%								
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	① 受託業者の作業内容を確認する。業者に任せっぱなしにしない。清掃頻度は、1日1回:大手便所等13か所、2日1回:霊丘公園便所等11か所、週1回:前浜公園便所等6か所など		目標		実施	実施	実施				
			実績		実施	実施	実施				
	②	目標									
		実績									
事業費等の推移	年度		24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度			
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予 算	計 画			
	① 直接事業費(千円)		4,788	4,765	5,416	5,425	5,490	5,490			
	財源内訳	国 県 支 出 金									
		地 方 債									
		そ の 他									
		一 般 財 源	4,788	4,765	5,416	5,425	5,490	5,490			
	② 従事職員給与費 b1×b2		437	433	439	446	449	0			
	従事職員数(人) b1		0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.00			
	職員平均人件費 b2		7,277	7,213	7,317	7,438	7,484				
事業費合計 ① + ②		5,225	5,198	5,855	5,871	5,939	5,490				

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評 価 内 容 （判断理由、課題等）	
必 要 性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている 事業の必要性が薄れることはない。	判 定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 市が管理する施設の清掃であり、民間での実施は難しい。	A
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 市が管理する施設の清掃であり、見直しの余地はない。	A
	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 公衆便所の清掃であり、清潔に保つ必要がある。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 市が管理する施設の清掃であり、検討の余地がない。	A
効 率 性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 費用に見合った成果が得られている。	A
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 市が管理する施設の清掃であり、現行以外の手法は見当たらない。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 改善の余地はない。	A
公 平 性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 公衆便所の性格上、受益者負担はなじまない。	A
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要		A
判定評点平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			3.00

◎ 総合自己評価（所管部署）	
評価結果	☒ A 継続実施(特段の見直しは行わない) ☐ B 改善・見直しを行う ☐ B1 事業規模の拡充 ☐ B2 事業規模の縮小 ☐ B3 事業内容の改善・見直し ☐ B4 その他の見直し ☐ C 休止(隔年実施などへの変更) ☐ D 廃止(終期の設定等を含む) 判断理由 市が管理する施設の清掃であり、特段の見直しは行わない。
今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等) なし
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せてを記載ください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。	

【2次評価】

総合判定	B3見直しのうえで実施 ⇒ 事業内容の改善
備考	業者が提出する作業日報の確認で、公衆便所が清潔に保たれているかどうかを判断するのは十分でないと思われる。作業内容の確認に改善の余地がないか検討する必要がある。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① ☒ 事業費縮減(事業の見直し)	③ ☐ 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② ☐ 民間委託等によるコストの縮減	④ ☐ 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	△ 197 (千円)